

【異年齢（縦割り）保育 ～見て学び・して学び・教えて学ぶ～】

清香会ではモンテッソーリ教育の精神を取り入れています。

【子どもの自立（自律）を援助しよう！

一人ひとりが自分の足でしっかりと生きていけば、皆が幸せに＝平和になる！】

というものです。

その1つの方法に『異年齢で生活することに大きな意味がある』としています。

そもそも人間は多様な世界で生きています。

年長者の経験を聞いたり、古い文献を細解いたり、若い人の新しい考えを聞いたりして、お互いに学び合い、成長しながら生活しています。

その縮小版が保育園や幼稚園、学校ですね。

小さいうちから身近で、少し年齢差がある他者と過ごす、という経験が出来ることは、子どもにとって鍵になります。

大きい子は小さい子の拙さを「手伝う」＝全てやってあげることもありますが、やり方を教えて（やって見せて）その子が出来るまで見守る場合もあります。

また、共に生活することで『まだ小さいので出来ないのは当たり前なんだ…』と身をもって体験し、「大目に見てあげる」という心の持ち方も学びます。

一方、小さい子にとっては、大きい子の一挙手一投足が刺激になり『自分もやりたい！』

『あんな風になりたい！』と憧れ、何でも真似します。

手伝ってくれるので嬉しい、という子もいますし、『自分でやりたいんだから手を出さないで！』という時期もあります。

大きい子にとっても、2歳前後特有のイヤイヤ期は手強いものがあるようです。

手伝ってあげたいけど「イヤ」と言われる。逃げていく。(笑)

だからと言って、小さい子もいつもそうではなく、一緒にいてくれる大きい子が心の支えになっていたりもします。

大きい子も頼られるのは嬉しいし、「ありがとう」と言ってもらえるともっとやる気になります。

段々相手の特徴も分かったりして、上手くやっていくようになります。

そうやって学年が違っても、お互いに学び合えるのがいいですね。

面白いことに、同じ学年だけで活動する時は甘えが出るのか、ふざけたり落ち着きがなくなる姿も見せたりします。

不思議と異年齢の時は律するようで、上手い具合にバランスを取る様子が素晴らしいと思います。

タイトルの【見て学び・して学び・教えて学ぶ】はモンテッソーリ教育の基本です。

やり方を教えてもらい（見て）、実際にやってみる。そして出来るようになったら今度は友達に教えてあげることで、自分も改めて学ぶ機会になる。

友達や小さい子から「ありがとう」と言ってもらえることで、子どもは自己肯定感が上がります。

子どもの世界の本当にいいサイクルの一場面です。

さあ子どもの育ちを、園と家庭、大人みんなで応援していきましょう。

